

途上国・新興国における金融グローバル化の進展

上坂 豪

〈要 旨〉

本稿では、途上国・新興国 18 カ国の対外資産・負債ストックに関するパネルデータを用いて、これらの国による金融グローバル化の進展を規定する要因の分析を行った。その際、ストック調整にかかわる調整コストの存在を考慮したダイナミック・モデルを GMM によって推定した。分析の結果、資本自由化は対外資本取引の形態をその他投資からポートフォリオ投資へシフトさせるように作用したが、金融グローバル化自体に対しては中立的だったことが明らかとなった。また期間分割したサンプルによる分析結果は、資本自由化が、まず 1980 年代半ばから 1990 年代半ばにかけてポートフォリオ投資を増大させ、続く 1990 年代半ば以降その他投資からの撤退を引き起こしたことを明らかにした。金融グローバル化の進展にとって重要な要因は、財・サービス貿易の増加、国内金融システムの発展、国内マクロ経済の不安定性であるが、これらがグローバル化の原動力となったのは 1990 年代半ば以降のことである。

© Japan Society of Monetary Economics 2009